東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

異文化交流を通したコミュニケーション能力の育成

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2022-06-30
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 西村,泰三
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00174214

異文化交流を通したコミュニケーション能力の育成

前グアム日本人学校　教諭
福岡県福岡市立横手小学校　教諭　西　村　泰　三

キーワード：異文化交流，コミュニケーション能力，映像通信

１．はじめに

在外教育施設の特性は，日本国外に設置された教育施設である点にある。そのため，一歩足を踏み出せば，そこは異文化の世界である。この在外教育施設の特性を生かした異文化交流の教育実践を３つ紹介したい。

２．教育実践

(1) 映像通信による交流学習（小学部５年生，国語科）

① ビデオニュースによる交流学習

平成22年12月，創立21周年目のグアム日本人学校には体育館がなく，教師は限られた施設や条件の中で教育活動を行っていた。自分にとっては当たり前のことが，他の人にとっては違うことがある。それに気付くことが，異文化理解の第一歩だ。私は，グアム日本人学校５年生に，日本の５年生と映像通信による交流学習を通して，グアム日本人学校のよさや日本の小学校との違いに気付かせる学習を行うことにした。

ビデオ電話で校庭のフルーツを紹介する子ども

小学５年国語科の「工夫して発信しよう」の単元で，子どもたちは「体育館建設募金」を取材し，体育館建設の願いや募金の取り組みをビデオニュースにまとめて，日本の小学５年生（福岡市立東光小学校）に送った。日本の小学５年生からも，学校の特色をまとめたビデオニュースが送られてきた。双方の学校でビデオニュースを鑑賞し，感想や質問を書きまとめた。

② ビデオ電話による交流学習

次に，インターネット回線を利用したビデオ電話（スカイプ）で交流学習を行った。

日本の小学５年生からは，ビデオニュースを見て「グアム日本人学校に早く体育館ができるといいですね。」という感想が伝えられた。さらに，日本側からの「グアム日本人学校では，どんな遊びをするのですか。」という質問に対して，グアム側は「サッカーの他，校庭になっているフルーツを食べます。」と答えた。日本側から「へえ。」という驚きの声が上がった。グアム側が，実際に校庭で採ったスターフルーツやサワーサップの実を見せると，日本側は「いいですね。ぼくたちも食べたいです。」と感想を伝えた。

③ まとめ

以上の教育実践の結果，次のような成果を得た。

○　小学５年国語科「工夫して発信しよう」の学習で，「体育館建設募金」を取材し，ビデオニュースにまとめて日本に発信する活動を通して，自分達の学校の特徴について理解を深めることができた。

○　日本の福岡市立東光小学校５年生から送られてきたビデオニュースを見ることにより，他校のよさや，グアム日本人学校との違いを異文化として理解することができた。

○　ビデオ電話（スカイプ）により，直接，感想を交流したり質疑応答したりすることを通して，自文化理解や異文化理解がより深まった。また，コミュニケーション能力を育成する上で意義があった。

(2) ガダオ保育所との交流学習（小学部２年生，生活科）

① １回目の交流学習

平成23年10月，グアム日本人学校小学部２年生は，生活科の学習で学校のとなりにある施設は何なのか調べるために見学へ行った。

まず，ガダオ保育所の先生から幼児が全員集まった部屋に案内された。そこで，保育所の先生や幼児といっしょに手遊び歌を楽しんだ。いくつかチャモロ語を教えていただいた。次に，年長の教室へ移動し，互いに自己紹介をした。２年生は，緊張しながらも，はっきりと英語で自己紹介することができた。そして，２年生はガダオ保育所の先生にいくつか質問をした。最後に，ガダオ保育所の先生から「次は10時に来るといいよ。外でいっしょに遊べるから。あなたたちはいつでも大歓迎よ。」とのお誘いをいただいた。

２年生は，大喜びで学校へ帰った。２年生は校長先生に「もっと仲良くなるために，またガダオ保育所に行きたいです。」とお願いをした。

２年生は，次のような感想を書いた。

○　チャモロ語と英語を使っていた。両方の言葉を使ってすごいと思った。

○　チャモロ語も話せるなんてすごいと思った。チャモロ語を習ってお友達ができたらいい。

ガダオ保育所との１回目の交流学習では，２年生が「チャモロ語」に強く関心をもつことができた。

② ２回目の交流学習

ガダオ保育所との２回目の交流学習の前に，英語で手遊び歌などを教える準備をして，訪問に出かけた。まず，幼児を集めた部屋で，英語で挨拶をした。次に，「かえるの歌」や「大きな栗の木の下で」の歌を日本語や英語で幼児に教えた。２年生は，テレビに出てくる歌のお兄さんやお姉さんのように振りをつけて笑顔で歌った。幼児は２年生の動作を真似して楽しんでいた。そして，日本語の「こんにちは」と「さようなら」という言葉を幼児に教えた。幼児は，たどたどしく発音を真似していた。さらに，手作りの玩具の「紙相撲」と「けん玉」の遊び方を幼児に教えた。説明がよくわからないような幼い子には，手を取り，遊び方を教えていた。最後は，外に出て幼児と元気よく遊んだ。幼児と遊具で遊んだり，元気よく走りまわったりする姿が見られた。外で遊ぶときは，言葉はいらないようだった。

ガダオ保育所の幼児と遊ぶ
小学部２年生

交流学習の後，２年生は次のような感想を書いた。

○　最後にＡくんが英語でおわりの言葉を言った。本番は，すらすら言えてすごかった。

○　前よりもっとたくさん友だちができたのでうれしかった。

ガダオ保育所との２回目の交流学習では，事前に英語で話す練習をしたことが本番で発揮できたこと，また，幼児と関わり深めることができたことを２年生は実感していた。

③ まとめ

以上の教育実践の結果，次のような成果を得た。

○　日本の歌や遊び，日本語の挨拶を幼児でも楽しめるように事前に準備をして臨んだ結果，幼児を楽しませることができた。

○　ガダオ保育所の先生がチャモロ語の歌や挨拶を幼児と一緒に教えてくださり，チャモロ文化に興味関心をもつことができた。

○　言葉が通じにくい幼児だからこそ，表情豊かに歌ったり，手をとり遊びを教えたりして，積極的に幼児と関わることができた。

(3) 現地校との交流学習

グアム日本人学校では，次の2点を目標に，小学部と中学部がそれぞれ現地校と交流学習を行っている。

○　アメリカやグアムの文化に興味や関心をもつとともに，日本の文化について理解を深めることができる。

○　英語の時間に学習したことを生かして，自分のことを表現し，相手と積極的に関わることができる。

私は，平成22年度は公立アダカオ小学校との小学部交流学習を，平成23年度は公立プライス小学校との小学部交流学習を，そして，平成24年度は私立セントジョンズ校との中学部交流学習を経験した。

小学部の場合は，英語で自己紹介をしたり，折り紙等の日本の遊びを教えたり，椰子の葉細工等のチャモロ文化を学んだりするような体験的な活動が主であった。

一方，中学部の場合は，生徒個人が，日本の伝統的な遊びや，現代のＪポップ，アニメ等からテーマを決めて，英語でプレゼンテーションを行ったり，現地校の生徒とペアを組み，現地校の授業を一緒に受けたりするような高い英語力を必要とする活動であった。中学部を卒業後，現地校への進学を考えている生徒にとっては，進学先を考える上でも意義深い交流学習であった。

３．結論

在外教育施設の特性を生かした異文化理解に視点をおいた交流学習を通して子どものコミュニケーション能力の育成を図った3つの教育実践を考察した結果，次の結論を得た。

○　映像通信（ビデオニュースやビデオ電話等）という手段を用いれば，在外教育施設の特性を生かした異文化交流を通してコミュニケーション能力を向上させることができる。

○　現地の保育所を訪問して，現地の幼児に日本の歌や遊びを教えたり，外で一緒に遊んだりする活動を通して，英語力のみならずコミュニケーション能力を向上させることができる。

○　現地校と交流学習を行う際，次の点に留意する必要がある。

・交流を成立させるための前提条件として，交流相手や相手の文化について興味関心を持たせ，自分や自分の文化を伝えようとする意欲を高める手立てを講じること。

・「折り紙」や「椰子の葉細工」等の異文化交流の具体的な切り口から，どのように切り込んで抽象的な異文化理解まで高めていくのか，道筋を明らかにすること。

・コミュニケーション能力の重要な要素である表現力を，日頃の授業や生活の中で培うこと。

４．おわりに

グアム日本人学校の長年の夢であった体育館建設が，関係者の御尽力により，平成24年に着工し，平成25年に完成した。これまで，炎天下や雨天時に困っていた体育の学習，教室の隔壁を取り除いて行ってきた入学式や卒業式，ホテルのステージを借りて行ってきた学習発表会など，体育館がないために努力してきたことがこれで報われる。

日本では当たり前のことが当たり前ではない世界がある。グアム日本人学校に派遣された3年間は，異文化体験そのものであった。異文化体験で身に付けた生きる術は，みんなで知恵を出すこと，協力し合い，助け合うことだ。

最後に，貴重な体験をさせていただいたことにお礼を申し上げたい。